Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency CASBEE 才し現



▮ 評価結果 ▮

			■使	用評価マニュア	ル: CASBEE	_Sapporo20	021v1.0 使用評	面ソフト: CASB	EE 札幌 2021(ver.1.0)
1-1 建物概要	Ī					1-2	外観		
建物名称	· (株)粧薬研究所社屋新築工事	F 階数		地上3 階地	下0階		- I 0		
是10日初		構造			I OPH				
	 北海道札幌市白石区中央3 组			S造					
建設地	目 9-12,9-13,9-14,15,16-1	一一一			72 人				o
		年間使用			20 時間/年(巻	思定値)	※ここに	外観バ	パースを
建物用途	事務所,工場,	評価の段	階	実施設計段	階評価		貼り付け	ナナくだ	さい
竣工年	2024年10月 予定	評価の実	施日	2023年11月25	日		MIDIT	, , , , , ,	
敷地面積	1,696 m ²	作成者							
建築面積	1,018 m ²	確認日		2023年11月25	日				
延床面積	2,277 m ²	確認者							
2-1 建築物の)環境効率(BEEランク&チム	マート 2-2 建翁	環境SDGs	チェックリス	ト評価結果	Į 2−3	大項目の評価	面(レーダ・一チャ	- ト)
BEE =1.0	***	Á					Q2	サービス性能	
100 3 5 5 5 5 6 7 7	Q1027= 2	▼ 4(教育 〒 5(ジェン ▼ 6(水・1) ▼ 7(エネル ※ 8(経済 ※ 9(4/ハ・1) ※ 11(都市 ※ 12(生年 ※ 13(気候 ※ 17(実近 * SDG1,2,1	(*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*)	2 -ルに集約されてI Q2のスコ フ		2.0 2.7 2.4 2.6 2.1 2.5 2.0 2.2 2.0 1.5 2.1 2.4	一次エネルギ 物全体の[BEI][E ZEB/ZEH-Mラ: Q のスニ 室外環境(敷地	BEIm] シク ロア= 2 以内)	Q3 室外環境(敷地内 LR3 敷地外環境 0.62 非散当 2.4 カスコア= 2.2
1 音環境	1.6 温熱環境 光·視環境 空気質	1 工環境	機能性	耐用性	対応性	1	生物環境	まちなみ ・景観	地域性・ アメニティ
LR 環境負荷(氐減性			III 17 III			LR のスニ	コア =	3.6
LR1 エネル	ギー	LR2	資源・マテリ	アル		LR3	敷地外環境		
	LR1のスコア= 4			LR2のスコフ	? = 3.2	5		LR3	のスコア=3.1
5 4 3 2 1 建物外皮の 熱負荷	3.0 3.0 自然エネ 設備システ 効率ルギー ム効率化 運用	的 2	*	3.1 非再生材料の 使用削減	3.3 汚染物質 回避	3 3 2 1	3.9	2.8 地域環境 への配慮	2.7 周辺環境 への配慮
3 設計上の面	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·								
総合 利用者に配慮し、 主要給排水配管は	F★☆☆を使用している。 耐用年数が長い材料を使用してい O2排出率の低減に努め、地球環境					BPIm	省エネルギー ⊫0.56。 ⊫0.62。		
B 省資源等		C 緑化				D	雪処理		
外壁仕上げ材:サイテ 給水VLP(B)、給湯 工場: LGS使用し ⁻ 事務所: OAフロア	BSUS(C)、排水VP(B)、Eは不使用。 ている。 使用している。	特になし				特に			
	E•評価制度の利用	<i>t</i> - 1			<i>t</i> - 1				
	iDGs 推進センターのCASBEE認証		ELS認証		なし		LEED認証		なし
エ記以外の認証	正・評価制度の利用 │	なし							

- なし
- ■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency(建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality(建築物の環境品質)、L: Load(建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction(建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency(建築物の環境効率
 ■環境品質Q=25×(Qのスコア-1)、環境負荷L=25×(5-LRのスコア)より算出

CASBEE_Sapporo2021v1.0 (株)粒素研究所社量新美工事 ■使用評価マニュア CASBEE_Sapporo2021v1.0 欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2021 (ver.1.0) 実施設計段階 スコアシート 建物全体·共用部分 住居·宿泊部分 重み 係数 重み係数 配慮項目 環境配慮設計の概要記入欄 全体 評価点 評価点 Q 建築物の環境品質 2.4 Q1 室内環境 2.4 音環境 3.0 0.15 3.0 1.1 室内騒音レベル 0.40 3.0 1.2 遮音 3.0 0.40 1 開口部遮音性能 3.0 0.60 2 界壁遮音性能 3.0 0.40 3 界床遮音性能(軽量衝擊源) 界床遮音性能(重量衝擊源) 4 1.3 吸音 3.0 0.20 温熱環境 0.35 1.6 1.6 2.1 室温制御 2.2 0.50 室温 1.0 0.38 外皮性能 省エネ 2 3.0 0.25 ゾーン別制御性 3.0 0.38 2.2 湿度制御 0.20 1.0 2.3 空調方式 0.30 1.0 光·視環境 2.5 0.25 2.5 _ 3.1 昼光利用 0.30 3.6 2.0%≦ [昼光率] <2.5% 昼光率 4.0 0.60 2 方位別開口 省エネ 3.0 0.40 3 昼光利用設備 3.2 グレア対策 1.0 0.30 昼光制御 省エネ 1.00 1 1.0 3.3 照度 3.0 0.15 3.4 照明制御 0.25 3.0 空気質環境 3.2 0.25 3.2 4.1 発生源対策 4.0 0.50 建築基準法を満たしており、かつ建築基準法規制対象外となる建 | 定本金+JAC MI ICU CO37、N フ / 生来金平伝及刑列系介ではる建 業材料(告示対象外の建材およびJIS・JAS規格のF☆☆☆☆)をほ ぼ全面的(床・壁・天井・天井裏の面積の合計の70%以上の面積) に採用している。 化学汚染物質 1.00 4.0 4.2 換気 3.3 0.30 建築基準法(シックハウス対応含む)および学校環境衛生基準を満 たす換気量の1.4倍となっている。 換気量 5.0 0.33 窓が開閉不可能な居室において、自然換気有効開口面積が 25cm2/m2以上。あるいは、窓が開閉可能な居室において、自然換 気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。あるいは、必要外気 量の2倍以上の外気冷房の採用により室内空気質の向上が期待 自然換気性能 4.0 0.33 取り入れ外気への配慮 3 1.0 0.33

	4.3 運用管理					1.0	0.20			
		1	CO ₂ の監視		-	-	-		-	
		2	喫煙の制御		-	1.0	1.00		-	
Q2	サーヒ	ごス性に	it .			_	0.30	-	,	2.7
1	機能性	±				2.2	0.40		-	2.2
	1.1	機能性	・・使いやすさ			1.6	0.40		-	
		1	広さ・収納性		-	1.0	0.33		-	
		2	高度情報通信設備対応		_	1.0	0.33		-	
		3	バリアフリー計画		-	3.0	0.33		-	
	1.2	心理性	· 快適性			2.6	0.30		-	
		1	広さ感・景観		-	3.0	0.33		-	
		2	リフレッシュスペース		リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上	4.0	0.33		-	
		3	内装計画		-	1.0	0.33		-	
	1.3	維持管	理			2.5	0.30		-	
		1	維持管理に配慮した設計		-	3.0	0.50		-	
		2	維持管理用機能の確保		-	2.0	0.50		-	
2	耐用性	生・信頼	性			3.1	0.30		-	3.1
	2.1	耐震·s	免震・制震・制振			3.0	0.50			
		1	耐震性(建物のこわれにくさ)		-	3.0	0.80		-	
		2	免震・制震・制振性能		-	3.0	0.20		-	
	2.2	部品・	部材の耐用年数			3.8	0.30	- 1	-	
		1	躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.20		-	
		2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	30年以上	5.0	0.20		-	
		3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.10		-	
		4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.10		-	
		5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。	5.0	0.20		-	
		6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.20		-	
	2.4	信頼性				2.6	0.20		-	
		1	空調・換気設備		-	3.0	0.20		-	
		2	給排水·衛生設備		-	2.0	0.20		-	
		3	電気設備		-	3.0	0.20		-	
		4	機械·配管支持方法		-	3.0	0.20		-	
		<u> </u>	通信•情報設備		-	2.0	0.20		-	
3		生更新				2.9	0.30		-	2.9
	3.1	空間の				2.2	0.30		-	
			階高のゆとり		-	1.0	0.60		-	
			空間の形状・自由さ		0.1≦ [壁長さ比率] <0.3	4.0	0.40		-	
	3.2	荷重σ	かから		2/6	3.0	0.30	·	-	

	3.3	設備の	更新性			3.4	0.40		-	
		1	空調配管の更新性		_	3.0	0.20			
		2	給排水管の更新性		_	3.0	0.20		_	
		3	電気配線の更新性		構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
		4	通信配線の更新性		仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる。	5.0	0.10		_	
		5	設備機器の更新性		_	3.0	0.20		-	
		6	バックアップスペースの確保		_	3.0	0.20		-	
Q3	室外:	屋境(事	 				0.38	-		2.2
1			ス全と創出	緑化	_	1.0	0.30	-		1.0
2			観への配慮	緑化	_	3.0	0.40		-	3.0
			ニティへの配慮	44.12		2.5	0.30		-	2.5
-			はへの配慮、快適性の向上	雪処理	_	2.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内	R温熱環境の向上	省資源	_	3.0	0.50		_	
LR	建築	物のエ	環境負荷低減性	緑化			-		-	3.6
		レギー					0.40	-		4.3
1	建物兒	ト皮の!	熟負荷抑制	省工ネ	BPI= 0.56 品確法= BPIm=0.56。	5.0	0.20	-		5.0
2	自然コ	ロネルゴ	广一利用	省エネ	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備	ノステム	の高効率化	省エネ	BEI= 0.62 BEIm=0.62。	4.8	0.50	-	-	4.8
4	効率的	内運用				3.0	0.20		-	3.0
		集合信	1 宅以外の評価			3.0	1.00		-	
		4.1	モニタリング	省エネ	-	3.0	0.50		-	
		4.2	運用管理体制	省エネ	-	3.0	0.50		-	
		集合信	主宅の評価				-	-	-	
		4.1	モニタリング	省エネ	-		-		-	
		4.2	運用管理体制	省エネ	_		-		-	
LR2	資源·	マテリ	アル			_	0.30	-		3.2
1	水資源	原保護				3.4	0.20		-	3.4
	1.1	節水			節水コマなどに加えて、省水型機器(擬音、節水型便器など)など を用いている。	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水和	川用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
		1	雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70		-	
		2	雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30		-	
2	非再5	生性資 注	原の使用量削減			3.1	0.60		-	3.1
	2.1	材料係	使用量の削減	省資源	_	2.0	0.11		-	
	2.2	既存建	は築躯体等の継続使用	省資源	-	3.0	0.22		-	
	2.3	躯体和	材料におけるリサイクル材の使用	省資源	_	3.0	0.22		-	
	2.4	躯体和	材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	リサイクル資材を2品目用いている。	3.2	0.22		-	
	2.5	持続可	J能な森林から産出された木材	省資源	_	-	-		-	
	2.6	部材の)再利用可能性向上への取組み	省資源	工場: LGS使用している。 事務所: OAフロア使用している。	4.0	0.22		-	

3	污染物	勿賞含	有材料の使用回避			3.3	0.20		-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤			-	3.0	0.30		-		
					3.5	0.70		-		
			省資源	-	-	-		-		
		2	発泡剤(断熱材等)	省資源	ODP=0かつ、GWP=10以下の発泡剤を用いた断熱材等を使用している。	4.0	0.50		-	
		3	冷媒	省資源	-	3.0	0.50		-	
LR3	3 敷地	外環境				_	0.30	-	-	3.1
1	地球温	显暖化·	への配慮	省資源	ライフサイクルCO2排出率76%	3.9	0.33		-	3.9
2	地域到	環境への	の配慮			2.8	0.33		-	2.8
	2.1	大気汗	5染防止	省資源	-	3.0	0.25		-	
	2.2	温熱斑	環境悪化の改善	省資源 緑化 雪処理	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域へ	ンフラへの負荷抑制			2.2	0.25		-	
		1	雨水排水負荷低減	省資源	-	3.0	0.25		-	
		2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
		3	交通負荷抑制		-	2.0	0.25		-	
		4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	-	1.0	0.25		-	
3	周辺球	環境への	の配慮			2.7	0.33		-	2.7
	3.1	騒音・	振動・悪臭の防止			3.0	0.40		,	
		1	騒音		-	3.0	1.00		-	
		2	振動		-	-	-		-	
		3	悪臭		-	-	-		-	
	3.2	風害、	砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
		1	風害の抑制		-	3.0	0.70		-	
		2	砂塵の抑制				-			
		3	日照阻害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害0)抑制			1.6	0.20	-	-	
		1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	1.0	0.70	-	-	
		2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30		-	

COmprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency CASBEETURE



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト:

CASBEE札幌2021(ver.1.0)

1 建物概要					
建物名称	(株)粧薬研究所社屋新築工事				
建物用途	事務所,工場,	BEE	1.0	BEEランク	B+
延床面積	2,277.2 m ²				

	ZF1-W1X /		ļ
2 1	重点項目への取り組み		レーダーチャート
地球温暖	最重点項目	***	省エネルギー 性能 5.0 4.0 3.0 2.0
化対策	省資源等		雪処理 省資源等への 取組
	緑 化		緑化への取組 ★1=スコア(最低点~最高点)20%以下
	雪 処 理		★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上

3. 重点項目のCASBEEスコア							
A 省エネルギー (最高点	22.5	最低点	6.4		合計	18.3点	/22.5点
Q1 温熱環境	スコア	0.5	∕0.8	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0	/ 4.0
Q1 光·視環境	スコア	0.6	∕1.7	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2	/2.0
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	9.6	∕ 10.0
				LR1 効率的運用	スコア	2.4	/ 4.0
B 省資源等 (最高点	24.2	最低点	7.8)		合計	16.3点	/24.2点
Q2 耐用性·信頼性	スコア	0.9	∕1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.8	∕9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.7	/2.8	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.5	/1.9
	·			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.9	∕5.0
				LR3 地域環境への配慮	スコア	2.5	/ 4.4
C 緑化 (最高点	18.4	最低点	3.7		合計	8.8点	/18.4点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.1	∕5.6	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5	/2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.5	∕ 7.5				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.7	/2.8				
D 雪処理 (最高点	3.0	最低点	0)		合計	点0.0	/3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	∕ 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	0.0	/2.0

- ■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency(建築環境総合性能評価システム)
 ■G: Quality(建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency(建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO」とは、建築物のの部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- 重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数 ■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数